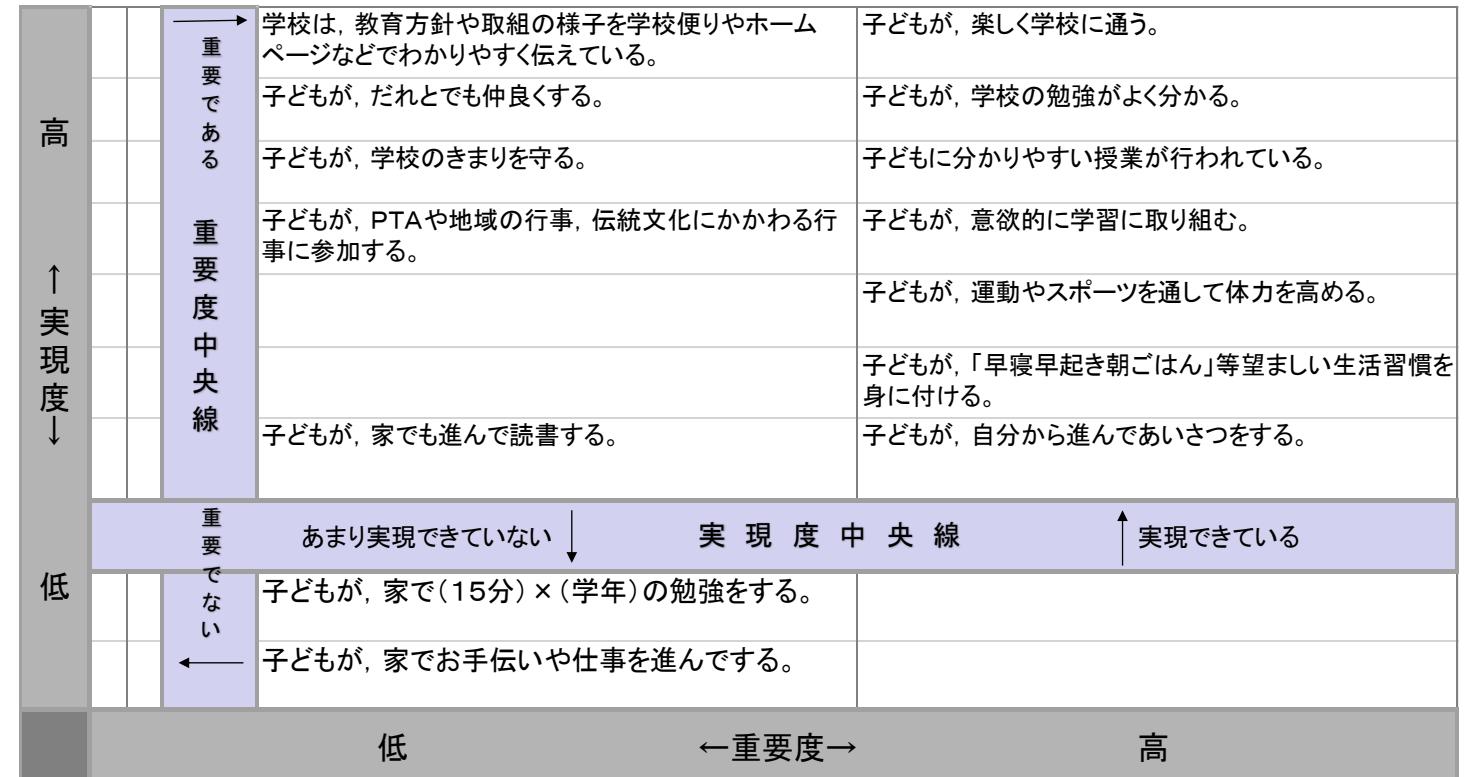


平成 30 年度前期
学校評価アンケートの結果より

秋の深まりを感じる頃、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育にご理解ご協力いただきありがとうございます。「前期学校評価アンケート」の結果についてお知らせいたします。



【保護者重要度と実現度の分布結果について】

「重要度」については、毎回の調査ですべて中央より右側に集まり、どの項目についても、保護者は「重要である」と考えています。また、それらがどれくらい実現されているかを示すのが「実現度」で、これは図の上側に行くほど実現できていることを示します。これら「重要度」と「実現度」とを関連付けて、それぞれの項目がどのような分布になったのかを示すのが上の図です。今回、最も重要でしかも実現できている（右上）に 7 項目、やや重要で実現できている項目に 5 項目が入るという結果となりました。

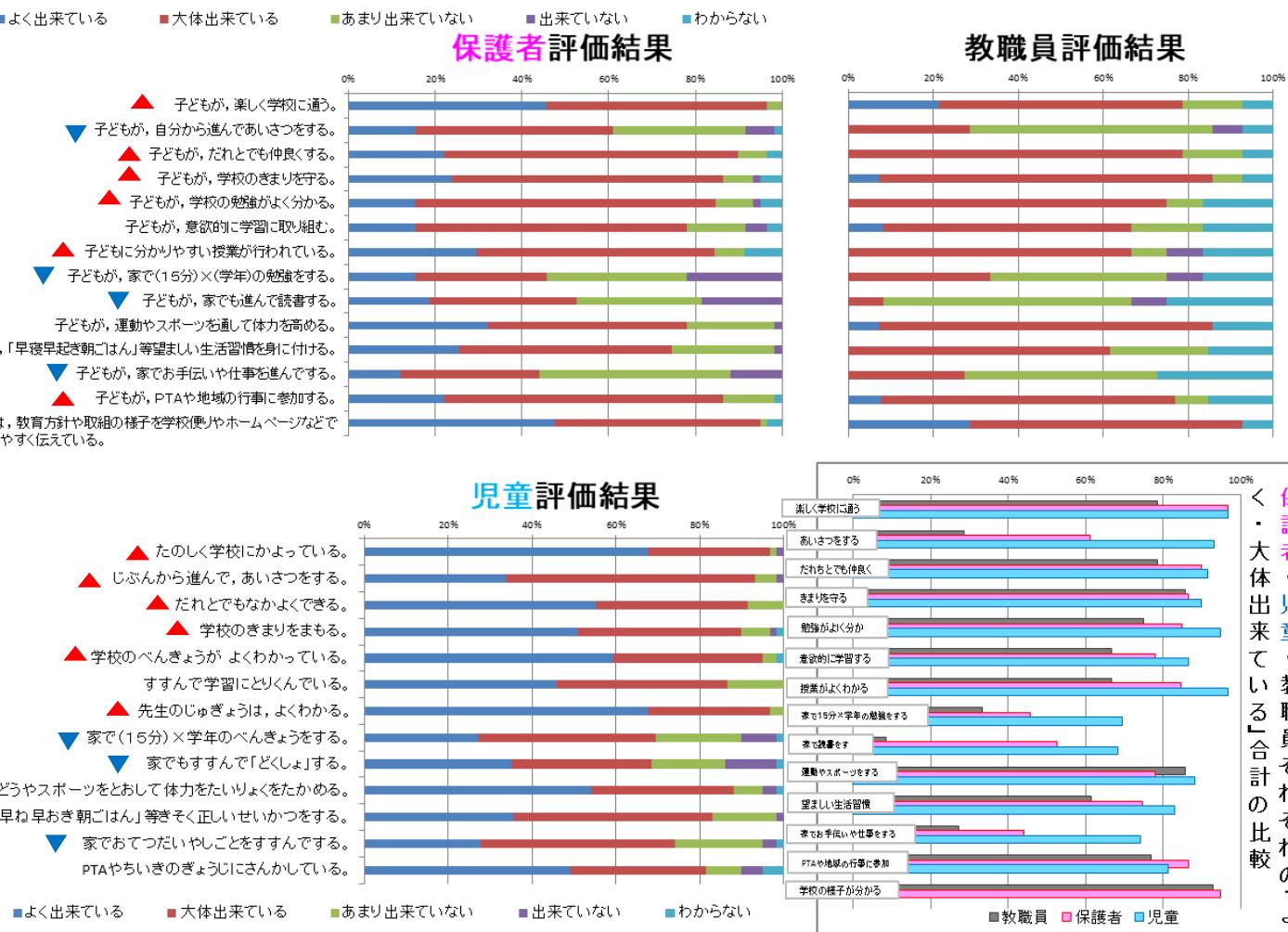
この結果から八瀬小学校の子どもたちは、毎日楽しく学校に通い、友達と仲良く過ごせていると感じてもらっています。また、学校での授業も分かりやすく行われていて、子どもたちが学校の勉強を分かっていると感じてもらえていることはうれしいことです。

一方、重要であるにもかかわらず、あまり実現できていない項目が 2 項目ありました。それは、家庭学習に関わる「家で 15 分×学年の勉強をする」と、日常生活に関わる「家でお手伝いや仕事を進んでする」の 2 項目です。家での学習時間が(15分)×(学年)だけ確保されておらず、家の手伝いや仕事もあまりしていないので、家庭でどのように過ごしているのか、どのように時間を使っているのか気になるところです。

平成 30 年度前期学校評価（実現度）結果

【項目ごとの実現度の結果について】

▲は、評価が高い項目で、八瀬の子の頑張っている良い面、▼は、評価が低かった項目で、少し弱い面です。



今回のアンケート項目は、例年通り 14 項目（児童は 13 項目）でした。保護者、教職員、児童それぞれの結果を上に示しました。また、それぞれの「よく出来ている」と「大体出来ている」という肯定的な回答を合わせたパーセントをそれぞれに色を変えて重ね、比較しました。よく出来ていること、逆にあまり出来ていないことの感じ方は、度合いについては多少違いますが、どれもよく似た傾向が見られます。

結果を見てみると、「楽しく学校に通う」「だれとでも仲良くする」「決まりを守る」「授業がよくわかり、勉強もわかる」「運動やスポーツで体力を高める」の項目の評価が高く、八瀬小学校の子どもたちは、とても充実した学校生活が送っていると子どもたち自身も保護者も感じていることが分かります。教職員も同じように感じていて、これは八瀬小学校の大変すばらしいところだと思います。

毎回問題になっている「家でも進んで読書する」は、まだ評価は低い方ですが、少し改善されているようです。評価が低かったのは、「家で 15 分×学年の勉強をする」という項目と、「家でお手伝いや仕事を進んでする」という 2 項目でした。学校で意欲的に学習しているけれど、家では宿題だけで終わってしまっているのかもしれません。分かったことを家でも復習をしたり、宿題だけでなく自学自習に取り組んだりして家庭学習を習慣化していく必要があります。学校では宿題の出し方を工夫したり、学年に応じて自学自習のヒントになるような学習例を紹介したりしていきたいと思います。また、家庭での学習については、家庭（保護者）の協力も必要なので、学校と家庭と連携していきたいと思います。「家でお手伝いや仕事を進んでする」という項目については、保護者と児童では約 30 % の差があります。「進んでする」というだけに、保護者は「親に言われる前にしてほしい」

という思いがあるのかもしれません。保護者の重要度が高いので、家庭で仕事やお手伝いの分担を具体的に決めたり、責任を持たせたりして、もう少し子どもたちに頑張らせてみてもいいのではないでしょうか。

また、「自分から進んであいさつをする」という項目では、児童の評価は90%を超えていたのに対して、保護者評価は約60%ということで、約30%もの開きがありました。また、教職員についてはさらに低い評価になっています。この問題について5年生の子どもたちが、国語の学習で取上げ、「より良い学校にいくために」提案文を作成して全校に発表してくれました。アンケート調査の結果、なぜ、子どもたちはあいさつをしていると思っているのに、大人（先生やお家の人たち）は、あいさつができないと感じているのか。どんなあいさつをしたらいいのか。良いあいさつができるようにしていくためにどうしたらいいのか。自分たちが考えたことをまとめ、2週間にわたってあいさつ運動をすることを提案してくれました。手作りの振返りカードも全校児童および教職員にも配布・回収して、一言アドバイスまで書いてくれていました。この運動の影響もあり、子どもたちが以前に比べてあいさつをするようになってきています。まだまだ個人差があったり、登下校で地域の方に会った時には、できていなかつたりということもあります。今回のような子どもたちの自発的な活動を大切にしながら、これからも、相手の顔や目を見て、さわやかな、気持ちの伝わるあいさつができるように心がけていきたいと思います。

【学校運営協議会の皆さんから】

- 八瀬小学校の子どもたちは、宿題をきちんとやり、学習もまじめにできていた、よく頑張っている。これから変化の激しい世の中で生きていくために、学校で友だちと一緒に学ぶこと、地域や家庭で学ぶことをそれぞれバランスよく身につけていってほしい。
- お手伝いについては、将来に役立つことなのでやらせたい。すぐできるものでもないので、一度は教えるとともに、できるようになるまでは見守ることも必要である。また、頼りにされたり、必要に迫られたりしたらやっている子どももいる。
- 子どもからの提案で、「あいさつ運動」をしたことは、素晴らしいことである。ぜひこれからも、子どもたちからの自主的な活動を大切にしてほしい。
- 八瀬小学校の子どもたちは、すごいと思う。毎年、学芸会を見ていて、あれだけの大きな声が出て、あれだけの演技ができるのはすごいことだと思う。いつも学芸会を楽しみにしている。
- これからの八瀬小学校の子どもは、まじめの先にある『強さ』を身に付けていくことが大事になってくると思われる。